
*) To be submitted to J. Phys. Soc. Japan

スピン系の動的臨界現象

(岡本寿夫)

一般化された連分数の形に展開された緩和関数を用いて、強磁性体及び反強磁性体の臨界点近傍における動的振舞、特に Sloppy Spin Wave についての知見を得ることを試みた。

しかし、連分数を打ち切る方法が適切でなかったため、予期したような結果が得られず、連分数展開の近似法を再考察する必要に迫られ、現在に到っている。

磁性体における異常緩和現象

(富田和久)

中性子非弾性散乱強度曲線の転移点近傍における振舞、その線巾及線型（いわゆる Sloppy Spin Wave を含む）の定量的評価を磁気緩和の一般理論に基づいて行なった。得られた結果の一部は昨秋の統計力学国際会議及今春の学会において発表した。詳細な報告は目下準備中である。

発表論文

K. Tomita and T. Kawasaki; Quasi-Collective Modes in the Paramagnetic Phase

Proc. Int. Conf. on Statistical Mechanics, Kyoto, 1968

(Suppl. J. Phys. Soc. Japan 26 (1969), 157)